



第3回

県立大学の設置・拡充に関する検討委員会

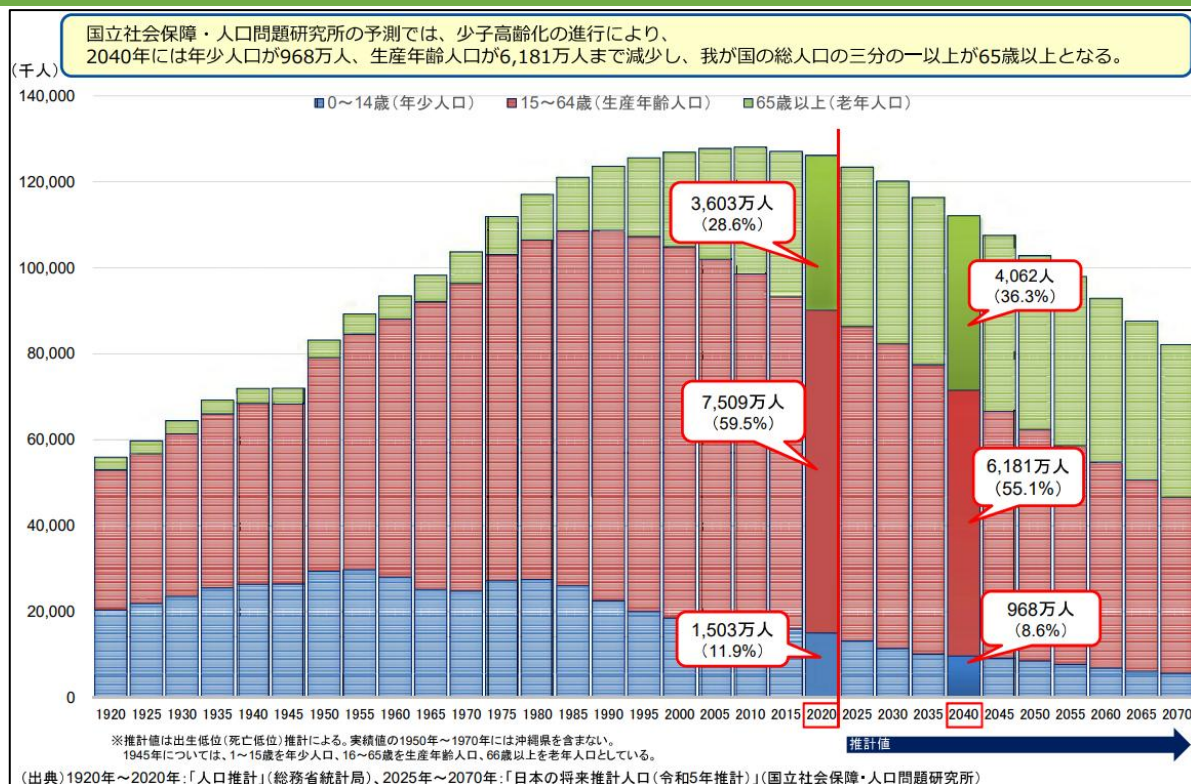
参考資料

	参考資料名	ページ
1	人口推計	2
2	国における人材育成の動向や方向性	3
3	県内高校（校長等）へのヒアリング調査（R8年）	4
4	高校生へのアンケート調査（R8年）	5～6
5	企業へのヒアリング調査（R8年）	7
6	企業へのアンケート調査（R8年）	8～11
7	県内大学等の状況	12

令和8年6月11日
香川県政策部

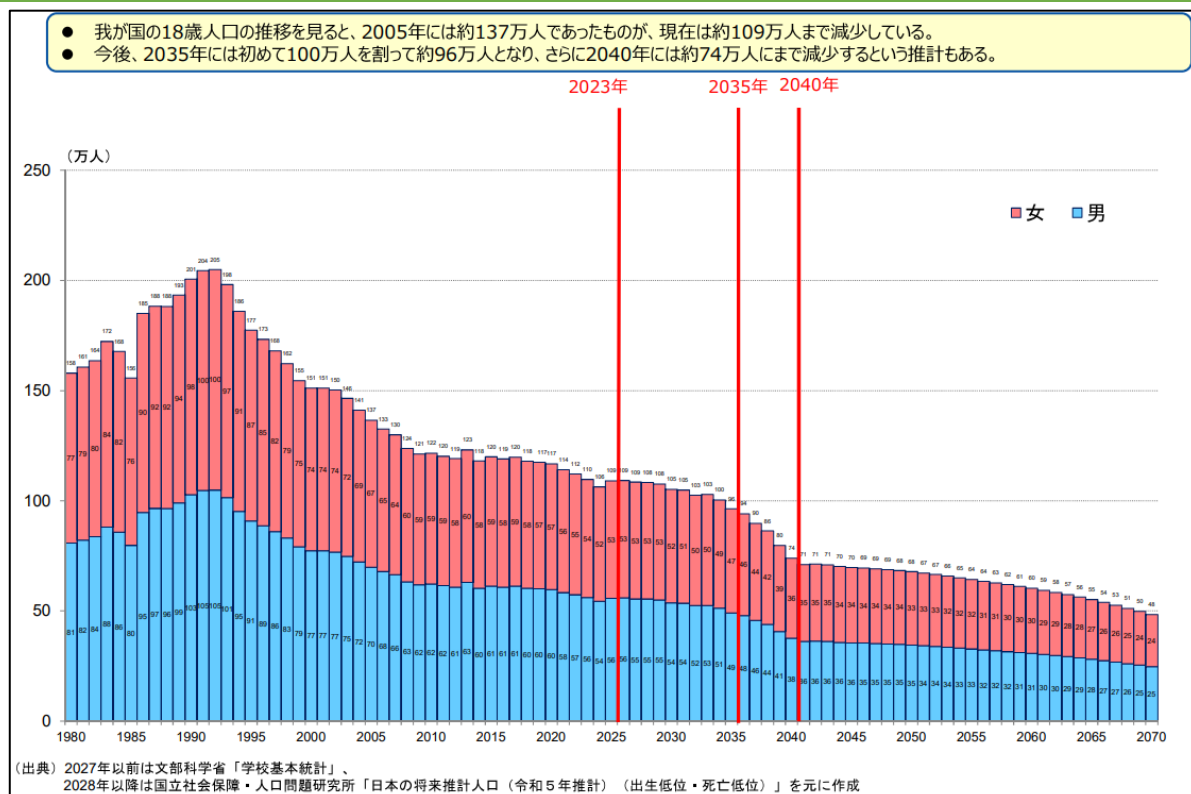
1 人口推計

(1) 人口の推移と将来推計



(出典)文部科学省「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)(中教審第255号)」関係データ集(令和7年2月)

(2) 18歳人口(男女別)の将来推計



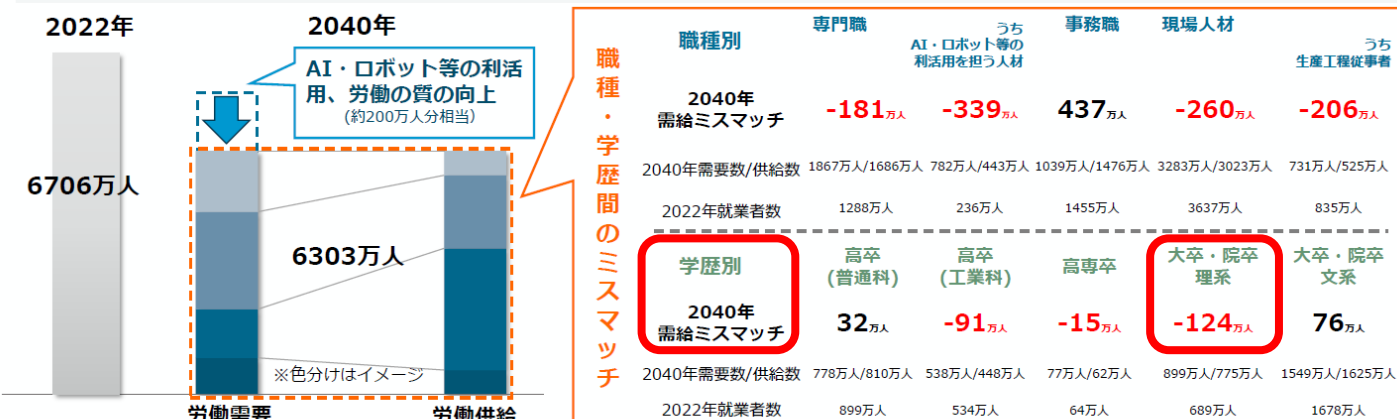
(出典)文部科学省「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)(中教審第255号)」関係データ集(令和7年2月)

2 国における人材育成の動向や方向性

(1) 将来的な就業構造の変化 (2040年の学歴別需給ミスマッチ)

2040年の就業構造推計 (改訂版) の概要

- 2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合^(注)、人口減少により就業者数は約6700万人^(2022年)から約6300万人となるが、AI・ロボット等の利活用やリスクリング等により労働需要が効率化され、全体で大きな不足は生じない。
- 一方で、職種・学歴・地域間では需給ミスマッチが生じるリスクがあり、**事務職(約440万人)や文系人材(約80万人)が余剰、AI・ロボット等利活用人材(約340万人)を含む専門職や現場人材(約260万人)、理系人材(約120万人)が不足する可能性。**

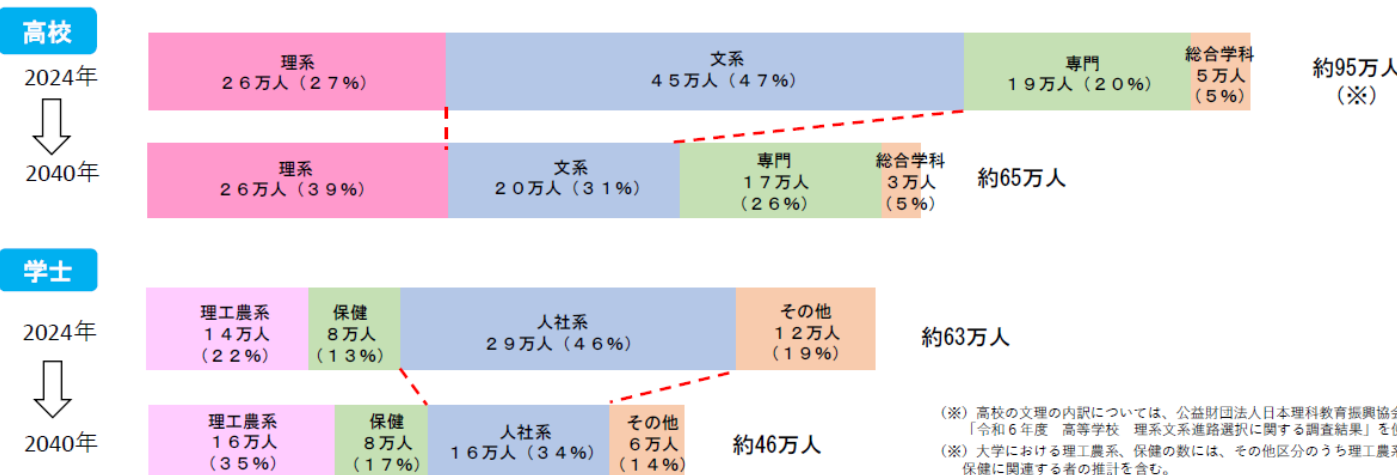


(注) 2025年6月経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「第4次中間整理」における2040年の産業構造推計(新機軸ケース)を前提としている。また、2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」(令和4年度)、文部科学省「学校基本調査」(令和4年度)の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体(総務省、文部科学省)が作成・公表している統計等とは異なる。
(注) 職種分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職種分類(総務省)による。「専門職」は、専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・探掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。学歴は学校基本調査上の学部学科コードを元に分類(「院卒」には修士卒・博士卒を含む)。なお、右表には主要な項目のみ掲載しているため、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

(出典) 経済産業省「2040年の就業構造推計(改訂版)について」(令和8年3月)

(2) 高等教育改革

少子化に対応するための高校・大学における文理分断の改善イメージ
(仮に、現在の高校普通科理系・専門高校、学士理工農系+保健のシェアを増大とした場合)



(※) 高校の文理の内訳については、公益財団法人日本理科大学振興協会「令和6年度 高等学校 理系文系進路選択に関する調査結果」を使用
(※) 大学における理工農系、保健の数には、その他区分のうち理工農系・保健に関連する者の推計を含む。

(出典) R8.1.26第1回日本成長戦略会議人材育成分科会 文部科学省資料より

3 県内高校（校長等）へのヒアリング調査（R8年）

【結果概要】 県内高校ヒアリング調査

調査期間：R7年12月～R8年2月

調査方法：県内高校を訪問し、生徒の進学状況や県立大学へのニーズ等を聞き取り

訪問校：9校（普通科高校4校、専門高校5校）

主な意見

①進学状況等

【普通科高校からの意見】

- 全体として県内大学への進学志向の生徒も多いが、県内国公立大学と県外私立大学を併願するパターンも多い。結果的に県内進学者は国公立の割合が高く、県外進学者の多くは私立大学へ進学している傾向がある。
- 最近では、早めに進学先を決めたいという傾向も強まっており、総合型選抜などの年内入試で進路を決める生徒も増えてきている。

【専門高校からの意見】

- 全般的には地元志向も強いが、4年制大学への進学者は県外へ進学することが多い。県内では学びたい分野の大学がないということなどの理由で県外に進学している。
- 県外大学に進学した場合、2、3割しか県内に戻ってきていない感覚がある。

②県立大学へのニーズ・県立大学との連携可能性

【普通科高校からの意見】

- 県立大学へのニーズはものすごくあると思う。地域枠があれば生徒は必ず受験する。
- 香川大学に近い大学が県内にもう一つあると、県内に生徒が留まる可能性がある。
- 理系でも学費が安く、生徒にとって学費等の負担が少なくて済むのではないか。
- 県立大学ができれば、ぜひ当校の生徒を入学させてほしい。
- 総合型選抜や学校推薦型選抜での入学者選抜があれば、受験もしやすく有り難い。
- 探究の時間を通じて、キャリア教育などに資する高校と大学との連携ができれば良い。

【専門高校からの意見】

- 県内に進学できる大学の選択肢が少ない。県立大学ができれば選択肢が増えるので賛成。
- 県内に進学 of 選択肢があれば、経済的な理由で大学進学を諦めなくてよい。
- 県立大学は、生徒の将来のための視野を広げる機会になると期待している。
- 高校にない実習施設・設備などについて利用させてもらえると有難い。
- 課題学習（3年次に生徒自身がテーマを決めてグループ学習を行うもの）の際に、県立大学の学生と連携して行うことができれば良い。

③将来的な教育の可能性

【普通科高校、専門高校共通の意見】

- 加速度的にAIなどが発達しても、機械や電気など、人が担う部分の技術や、そうした分野の人材育成の重要性は、あらためて見直されるのではないか。
- 今後の地域振興を考える上では、データサイエンスなどの学びが必要ではないか。生徒の意識もそのように変わってくると思うし、保護者もそういった意識を持っている方もいる。

4 高校生へのアンケート調査（R8年）

【結果概要】 高校生アンケート調査結果

【実施期間】 R8.3.2～R8.3.9

【対象】 普通科高校（3校） 専門高校（2校） 【回答】 745名

※各校の1、2年生のうち理系を選択している生徒からの回答（745名）のうち以下は、
工学系の大学進学も視野に入れて考えている傾向がある480名の集計結果である。

①全体概要

実施状況	対象数 (A)	回答数 (B)	回答率 (B/A)
回答数等	974	480	49%

②「学科」を選択してください。

学科	普通科	工業科	情報科	計
回答数	235	199	46	480
全体に占める割合	49.0%	41.5%	9.6%	100.0%

④「性別」を選択してください。

性別	男	女	答えない	計
回答数	361	111	8	480
全体に占める割合	75.2%	23.1%	1.7%	100.0%

⑤「卒業後の進路」を選択してください。

進路	大学	短大	専門学校	就職	その他	決めていない	計
回答数	301	2	17	117	1	42	480
全体に占める割合	62.7%	0.4%	3.5%	24.4%	0.2%	8.8%	100.0%

問1（単一回答）（n=480）

仮に次のような工学系の県立大学が県内に出来たとしたら、進学先の候補として考えますか。

（あなたの考えに近いものを、1つだけ回答してください。）

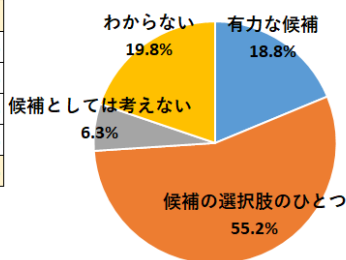
☐ 地元国立大学の併願校となり得るもの

☐ 県内企業と連携した実践的な教育を行うもの

☐ まずは、工学系（機械、電気、情報、材料、建築など）の基礎をいくつか選択して学び、学年が進めば特定の分野を専攻して学ぶもの

☐ 学校推薦型選抜などにより、県内高校から多くの学生を受け入れるもの

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
1 進学先の有力な候補として考える	90	18.8%
2 進学先の候補の選択肢のひとつとしては考える	265	55.2%
3 進学先の候補としては考えない	30	6.3%
4 わからない	95	19.8%
回答数	480	100.0%



問2（複数回答（最大3つ））（n=355）

問1で「1 進学先の有力な候補として考える」「2 進学先の候補の選択肢のひとつとしては考える」を選んだ方にお伺いします。その理由を教えてください。（あなたの考えに近いものを、最大3つまで回答してください。）

選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合
1 学びたい内容の分野だから	171	48.2%
2 就職に有利なイメージがあるから	143	40.3%
3 自分の学力から見て目指せそうだから	45	12.7%
4 県内高校から入学しやすそうだから	98	27.6%
5 自宅から通えるから	127	35.8%
6 学費が安いイメージがあるから	47	13.2%
7 県が設置する公立大学であるから	68	19.2%
8 施設や設備が充実していそうだから	46	13.0%
9 住み慣れた地元で暮らせるから	84	23.7%
10 その他の理由	11	3.1%
回答数 (=n)	355	

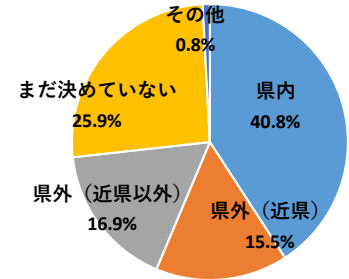
※質問1「有力な選択肢」「選択肢のひとつ」の回答者合計

4 高校生へのアンケート調査（R8年）

問3（単一回答）（n=355）

問1で「1 進学先の有力な候補として考える」「2 進学先の候補の選択のひとつとしては考える」を選んだ方にお伺いします。仮にこうした県立大学に進学した時に、就職先としては、どの地域を考えていますか。（あなたの考えに近いものを、1つだけ回答してください。）

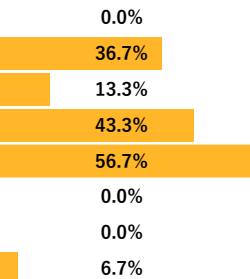
選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
1 県内	145	40.8%
2 県外（近県（中国・四国地方）	55	15.5%
3 県外（近県以外）	60	16.9%
4 まだ決めていない	92	25.9%
5 その他（家業を継ぐ、起業するなど）	3	0.8%
回答数	355	100.0%



問4（複数回答（最大3つ））（n=30）

問1で「3 進学先の候補としては考えない」を選んだ方にお伺いします。その理由を教えてください。（あなたの考えに近いものを、最大3つまで回答してください。）

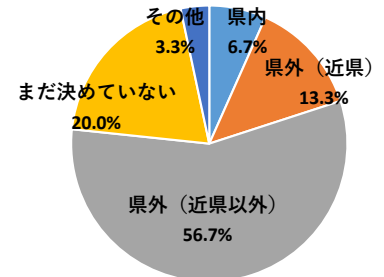
選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合
1 学びたい内容の分野ではないから		0.0%
2 他の大学等の方が就職に有利そうだから	11	36.7%
3 自分の学力と合致しなさそうだから	4	13.3%
4 県外に他に志望する大学等があるから	13	43.3%
5 他県に住んでみたいから	17	56.7%
6 高校卒業後は、短大、専門学校等への進学を考えているから	0	0.0%
7 高校卒業後は、就職を考えているから		0.0%
8 その他の理由	2	6.7%
回答数（=n）※質問1「候補として考えない」	30	



問5（単一回答）（n=30）

問1で「3 進学先の候補として考えない」を選んだ方にお伺いします。将来的に、就職先として、どの地域を考えていますか。（あなたの考えに近いものを、1つだけ回答してください。）

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
1 県内	2	6.7%
2 県外（近県（中国・四国地方）	4	13.3%
3 県外（近県以外）	17	56.7%
4 まだ決めていない	6	20.0%
5 その他（家業を継ぐ、起業するなど）	1	3.3%
回答数	30	100.0%



【結果概要】企業ヒアリング調査

調査期間：R8年1月～R8年4月

調査方法：企業を訪問し、技術系職種の採用状況や、人材ニーズ等を聞き取り

訪問企業：13社（製造業、建設業、情報通信業、運輸業、金融業、インフラなど）

主な意見

①技術系職種の採用状況

- 多くの企業から技術者の採用に苦戦しているとの声があった。
- 大学院まで修了していなくても大学卒で採用したいとの声が多かった。
- 製造業の設備導入等のために「機械」「電気」、システム構築等のために「情報」、業種により「材料」「建築」分野を学んだ人材を求める声もあった。

②採用したい人材

- 「製造現場は、自動化が進むが、エンジニアはこれからも必要」、「技術を現場に使えるようにする実装力等が必要」との声があった。
- 将来採用したい人材について、「現場の条件、地域の特性を踏まえた総合的な判断ができる人材」、「ビジョンや方向性を示すことができる人材」、「変化を恐れず、新しい事にチャレンジし、自ら道を切り拓いていく人材」など、将来的に企業や組織の中核を担える素養を有する人材を求める声も多かった。
- また、将来的には、AI・DX・ロボット活用の進展を見据え、AIから出力された情報を基に正しい判断ができる人材や、データ活用力を備えた人材を求める声もあった。

③県内大学について

- 県内大学には県外出身者も多く、卒業後に県外就職するケースがあるため、県内企業の採用につながりにくいとの指摘があった。
- 県内で学んだ学生は地元企業への理解が深く、ミスマッチが起こりにくいとの評価もあり、県内高等教育の受け皿拡充が期待されている。

④県立大学への期待・求めるもの

- 13社中12社で「県立大学は人材確保に寄与する」との回答で、人材の育成・輩出への期待の声が多かった。
- 「大学で一定、専攻分野の中で基礎をしっかりと学んだ人材がほしい。」との声があった。
- 一方、今後のAI利活用や現場の高度化等も見据え「特定の分野だけより、幅広く学んだ人材の方が、視野も広がり、就職後に活躍する人材になるのでは」と言った意見もあった。
- 基礎学力の確保、企業で通用する実践性、大学のレベル維持、県内企業が求める人材の育成を求める声もあった。

⑤県立大学との連携可能性

- 多くの企業で、施設の提供、共同研究、委託研究、インターンシップでの連携可能性があるとの声が多く、寄附講座や出前授業なども可能との声があった。
- 企業と連携した実践的な教育は、学生の県内定着や採用につながるものとして前向きに受け止める声が多かった。

6 企業へのアンケート調査（R8年）

【結果概要】企業アンケート調査

【実施期間】R8.3.5~R8.3.13

【対象・回答】「かがわ企業ガイド」掲載企業のうち「メーカー」、「情報通信・ソフトウェア」、「交通・インフラ」、「建設・不動産」に分類される92社に対して調査を実施。（回答数：71社）

①全体概要

実施状況	対象数 (A)	回答数 (B)	回答率 (B/A)
回答数等	92	71	77.2%

②「業種」（日本産業分類大分類）を選択してください。

業種	建設業	製造業	電気・ガス・熱・水道	情報通信	運輸業、郵便業	サービス業（他に分類されないもの）	回答計
回答数 (A)	14	47	1	3	5	1	71
全体に占める割合	19.7%	66.2%	1.4%	4.2%	7.0%	1.4%	100.0%

③「従業員規模」を選択してください。

学科	99人以下	100~299人	300~999人	1,000人以上	計
回答数	19	28	14	10	71
全体に占める割合	26.8%	39.4%	19.7%	14.1%	100.0%

④「企業の形態」を選択してください。

性別	①	②	③	計
回答数	64	7	0	71
全体に占める割合	90.1%	9.9%	0.0%	100.0%

【企業の形態】

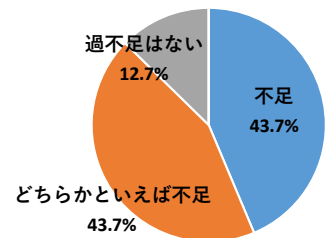
- ①県内に本社又は主たる事業所を有する企業
- ②県外に本社又は主たる事業所を有するが、県内の支社、支店、事業所においてエリアの新卒採用活動を行っている企業
- ③上記のいずれでもない

■ 技術系人材の採用状況（直近年度）

問1（単一回答）（n=71）

貴社における高専・大学卒以上の技術系人材（専門的な技術的知識を用いて研究開発や設計、製造、メンテナンス、ITサービス、建設などに関連する業務に従事する職）の人手不足の状況について教えてください。（1つ選択）

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
不足している	31	43.7%
どちらかといえば不足している	31	43.7%
過不足はない	9	12.7%
どちらかといえば過剰である	0	0.0%
過剰である	0	0.0%
回答数	71	100.0%



問2（数値で回答）

直近年度（2025年度）の技術系人材（高専・大学卒以上）の採用数、不足数（採用したかった希望人数との差）を入力してください。（数字のみ入力。該当がない場合は「0（ゼロ）」としてください）

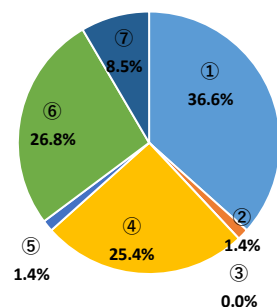
採用数合計(A)	不足数合計(B)	不足率 $1-B/((A)+(B))$
411	159	▲27.9%

6 企業へのアンケート調査（R8年）

問3（単一回答）（n=71）

高専・大学卒以上の人材に関して、貴社において採用したい技術系人材について、貴社の考えに一番近いものを選択してください。（1つ選択）

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
①高専卒・大学卒	26	36.6%
②大学院（修士課程修了）	1	1.4%
③大学院（博士課程修了）	0	0.0%
④高専卒・大学卒、大学院（修士課程修了）のいずれでも良い	18	25.4%
⑤大学院（修士課程修了）、大学院（博士課程修了）のいずれでも良い	1	1.4%
⑥高専卒・大学卒、大学院（修士課程修了）、大学院（博士課程修了）のいずれでも良い	19	26.8%
⑦その他（自由記述）	6	8.5%
回答数	71	100.0%



「その他」の自由記述

技術系人材でなくても良い

高校生からの採用が中心であり、現時点では不透明です。

高専・大学卒・短大卒・能開大卒

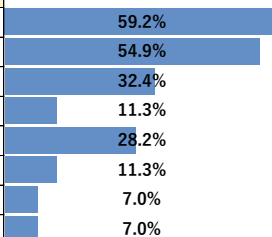
今の段階では専門学校がメインでよいと考えている

問4（複数回答（最大3つ））（n=71）

技術系人材として採用したい人材について、求める専攻分野を選択してください。（3つまで選択可）

選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合
工学系（機械）	42	59.2%
工学系（電気・電子）	39	54.9%
工学系（情報）	23	32.4%
工学系（材料・化学）	8	11.3%
工学系（土木・建築）	20	28.2%
理学系	8	11.3%
農学系	5	7.0%
その他	5	7.0%
回答数（=n）	71	100.0%

※質問1「有力な選択肢」「選択肢のひとつ」の回答者合計

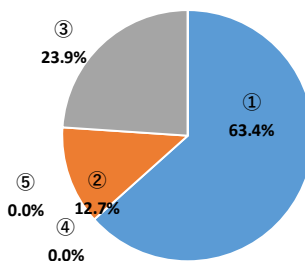


■ 将来の採用ニーズの変化

問5（単一回答）（n=71）

将来的に、貴社における高専・大学卒以上の技術系人材の確保の見通しはどのようにお考えですか。（1つ選択）

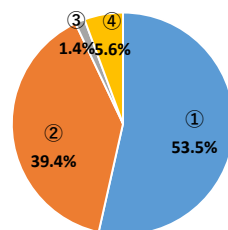
選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
①厳しくなる	45	63.4%
②どちらかといえば厳しく	9	12.7%
③どちらともいえない	17	23.9%
④どちらかといえば改善する	0	0.0%
⑤改善する	0	0.0%
回答数	71	100.0%



問6（単一回答）（N=71）

今後、10～15年先を見据えた場合、貴社の技術系人材のニーズはどのように変化すると考えますか。（1つ選択）

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
①高専、大学卒以上で専門知識を学んだ技術者のニーズが高まる	38	53.5%
②現状と大きく変わらない	28	39.4%
③高専・大卒以上で専門知識を学んだ技術者のニーズが下がる	1	1.4%
④わからない	4	5.6%
回答数	71	100.0%



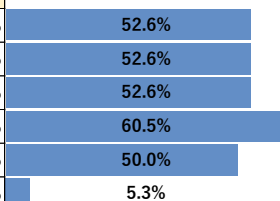
6 企業へのアンケート調査（R8年）

問7（複数回答）（n=38）

上記のように考える理由を選択してください。（複数選択可）

（問6で「高専・大学卒以上で専門知識を学んだ技術者のニーズが高まる」を選択した方のみ回答）

選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合
省人化・自動化の進展	20	52.6%
設備・工程の高度化	20	52.6%
D X・データ活用の進展	20	52.6%
研究開発や設計業務の重要性増大	23	60.5%
品質・安全・規制等への対応の高度化	19	50.0%
その他（自由記述）	2	5.3%
回答数（=n）※問6「①」の回答者	38	



「その他」の自由記述

少子化の加速、人手不足の影響

大手ゼネコンの青田買い

■ 県立大学への期待

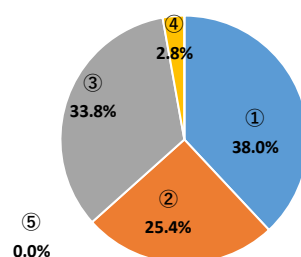
仮に次のような工学系の県立大学が設置されるとした場合について、貴社のお考えをおうかがいします。

- 県内企業と連携した実践的な教育を行うもの
- まずは、工学系（機械、電気、情報、材料、建築など）の基礎をいくつか選択して学び、学年が進めば特定の分野を専攻して学ぶもの
- 県内高校から多くの学生を受け入れるもの

問8（単一回答）（n=71）

県立大学は、貴社の技術系人材の確保に、どの程度寄与すると考えますか。（1つ選択）

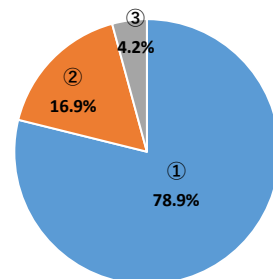
選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
①寄与する	27	38.0%
②ある程度寄与する	18	25.4%
③どちらとも言えない、わからない	24	33.8%
④あまり寄与しない	2	2.8%
⑤寄与しない	0	0.0%
回答数	71	100.0%



問9（単一回答）（n=71）

県立大学に望む教育内容として、貴社の考えに一番近いものを選択してください。（1つ選択）

選択肢（1つだけ回答）	回答数	全体に占める割合
①まずは、工学系（機械、電気、情報、材料、建築など）の基礎をいくつか選択して学び、学年が進めば特定の分野を専攻して学ぶ教育内容がよい	56	78.9%
②専攻する特定の分野のみの専門性を高める教育内容がよい	12	16.9%
③その他（自由記載）	3	4.2%
回答数	71	100.0%



「その他」の自由記述

現状では高校生の採用を想定していて大卒については不透明である

専門分野の大学を考えておられるのなら、芸術系分野の大学、もしくは観光デザイン系がいいと思います。

6 企業へのアンケート調査（R8年）

問10（複数回答）（n=71）

県立の工学系大学に期待する役割を選択してください。（複数選択可）

選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合	
人材輩出機能	60	84.5%	84.5%
共同研究・技術相談	19	26.8%	26.8%
DX・技術高度化への支援	18	25.4%	25.4%
社員の学び直し（リスキリング）	12	16.9%	16.9%
地域の課題解決	31	43.7%	43.7%
特に期待しない	2	2.8%	2.8%
その他（自由記述）	2	2.8%	2.8%
回答数（=n）	71		

「その他」の自由記述

現状では高校生の採用を想定していて大卒については不透明である。

若年層の県外流出を防ぐ

問11（複数回答）（n=71）

若者の県内定着のため、貴社と県立大学との間でどのような連携が可能でしょうか。

貴社において考えられるものを選択してください。（複数選択可）

選択肢（3つまで回答可能）	回答数	nに占める割合	
寄附講座の開設	15	21.1%	21.1%
共同研究	21	29.6%	29.6%
委託研究	8	11.3%	11.3%
施設の提供	11	15.5%	15.5%
研究フィールドの提供	7	9.9%	9.9%
インターンシップ	62	87.3%	87.3%
コーオペ教育	4	5.6%	5.6%
その他（自由記述）	7	9.9%	9.9%
回答数（=n）	71		

「その他」の自由記述

県立大学に生物工学など生物学的専攻があれば、さらに別途連携が考えられる。

今、思いつきません

大学側で地元中小企業への訪問や職場体験を課題（必須科目）とし、必ず1名1社以上受講させる。企業側はこれを受け入れる（会社と大学の連携・協力）

講座の実施（企業目線のキャリア講座の実施）

出前授業など

7 県内大学等の状況

入学定員充足率（R 5～R 7）

大学等	R5			R6			R7		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
香川大学	1,239	1,290	104.1%	1,239	1,285	103.7%	1,236	1,282	103.7%
県立保健医療大学	90	90	100.0%	90	88	97.8%	90	92	102.2%
四国学院大学	290	225	77.6%	290	188	64.8%	290	208	71.7%
高松大学	175	155	88.6%	175	154	88.0%	175	124	70.9%
徳島文理大学	395	280	70.9%	395	262	66.3%	475	455	95.8%
大学計	2,189	2,040	93.2%	2,189	1,977	90.3%	2,266	2,161	95.4%
高松短期大学	150	78	52.0%	90	82	91.1%	90	64	71.1%
香川短期大学	220	204	92.7%	215	173	80.5%	215	174	80.9%
せとうち観光専門職短期大学	80	20	25.0%	40	32	80.0%	40	23	57.5%
短期大学計	450	302	67.1%	345	287	83.2%	345	261	75.7%
合計	2,639	2,342	88.7%	2,534	2,264	89.3%	2,611	2,422	92.8%

（出典）各大学の公表情報をもとに作成

自県進学率（過年度卒業者等を含む）（R 5～R 7）

	R5	R6	R7
県内高校卒業の大学進学者数	5,031	4,801	4,931
うち県内大学への進学者数	874	851	938
自県進学率（全国順位）	17.4%（44位）	17.7%（44位）	19.0%（41位）

（出典）文部科学省「学校基本調査」をもとに作成

県内就職率（R5.3卒～R7.3卒）

	R5年3月卒			R6年3月卒			R7年3月卒		
	就職者数	うち県内	県内就職率	就職者数	うち県内	県内就職率	就職者数	うち県内	県内就職率
大学計	1,617	682	42.2%	1,560	625	40.1%	1,553	636	41.0%
短期大学計	285	251	88.1%	257	216	84.0%	231	198	85.7%
合計	1,902	933	49.1%	1,817	841	46.3%	1,784	834	46.7%

（出典）香川県地域活力推進課調べ